

文脈のリスニングに与える効果について

On the Effect of Contexts on Listening

長谷川 誠

Makoto HASEGAWA

0. はじめに

コミュニケーションの道具としての英語という観点から、英語教育の中での音声面重視の傾向が大きな流れとなっていることが、全国の全ての公立高等学校の入試でリスニングのテストが実施されることや、また、徐々にではあるが、大学の入学試験にリスニングのテストが組み込まれるようになってきていることからもうかがえる。これにより、受験に必要なであるということで、中学校や高等学校の英語指導でも音声面の指導が今まで以上に重視されることが期待される。このような方向は望ましいものである。

ところが、音声面の重視と一口に言っても、音声を扱う評価方法については、まだ手探りの状態であるといえよう。

本稿では、単語の聞き取りに関して、ただ単に語のみを与えた場合と文という文脈を与えられた場合を比較し、文脈のリスニングに及ぼす効果について報告する。

1. 音声のテスト

これまでの入学試験におけるリスニング・テストを振り返ってみると、それは、授業内で行われる形成的・診断的リスニング・テストと比較すると、総合力・複合力を測定しようと指向する点で重点の置き方が異

なっている、といえる。授業内で行われる形成的・診断的リスニング・テストでは、聴解力を伸ばすような指導ばかりでなく、音声の聞き取りに重点を置いた指導もなされるが、入学試験では、限られた時間の中で、受験者の持つ英語の力を多面的に測定しようとするため、入学試験におけるリスニング・テストに音声の聞き取りというような単一の技能を測定するテストを組み込むことはきわめて難しいといえる。そこで、入学試験におけるリスニング・テストは、聴解テストの形で行われることが多い。

総合的な力を測定しようとする聴解テストは、読解テストを作成する場合と同じ前提に基づいて作成されているように思われる。それは、即ち、「ある文脈の中で問題を解決するには、個々の語についての知識ばかりでなく、より大きな知識の存在が必要である」、という形で述べるのが可能な前提である。実際の入学試験におけるリスニング・テストは、このような前提に基づいて、文脈の情報の与えかた、解答の仕方に様々な工夫を施したものであると考えられる。

この前提は、書かれた問題の場合には、経験的に正しいものであると思われるが、リスニング・テストの場合にも同じ事が言えるかということ、すぐに答えることは難しい。それは、書かれた問題の場合には、全ての受験者が文脈の手がかりを利用できる、ということに

は疑問の余地はないからである。その手がかりを上手に使えるかどうか、ということが問題となるのである。それに対してリスニング・テストの場合はどうかというと、その文脈を理解するには、その文脈が文字で与えられているのでなければ、その文脈を聞き取ることがまず必要となるので、その文脈の情報が受験者に到達しているかどうか、ということに関して大きな違いがある。もしも文脈の情報が受験者に到達しないならば、いくら文脈を工夫した聴解テストを考案しても、それは、聞き取りテストと本質的に何ら異なるものではなくるのである。

本稿では、実際の入学試験に多く見られるリスニング・テストのような文章の内容の聴解ではなく、その前提となるような、文脈によって与えられる情報を文という小さな単位に設定した場合の文脈の有無による語の聞き取りの違いを実験的に測定した。

2. 実験の概要

本研究では、基礎的な語の聞き取りに、単に語だけを聞かせた場合と、文の一部として語を聞き取らせた場合とに違いがあるかどうかを調べた。単に語の音だけを聞き取らせるよりも意味のある文脈の中で語を聞き取らせる方が、統語的・意味的情報も助けとなるのであるから、ただ単に音だけを聞き取らせるよりも聞き取りが容易になると予想される。この差が、総合的な力と言えるものであり、文脈の情報が被験者に与える効果であると考えられる。

聞き取りの被験者は、本校の1年生31人、2年生29人、3年生36人、4年生35人の計131人である。聞き取りの対象となる語は、中学校の必修語を中心に選定した次の23語である。

中学の必修語 (20語)

but, called, cold, hard, know, light, long, many, money, no, now, right, see, she, sing, so, think, three, tree, wrong,

必修語ではないが全ての中学の教科書に出ているもの (3語)

heard, saw, thing,

文という単位の文脈の中で与えられる語の聞き取りは、後ろに資料3としてつけてある英文を使った。英文は全てnativeによってnatural speedで読まれたものである。

はじめに、文脈を伴った語の聞き取りテストを行った。ここでは、文脈は全て音声のみによって与えられた。例えば、3の場合、被験者は、The guest had

heard these voices too many times, and now he was afraid. という英文を2回聞かされ、次に、many times, and now he was afraid. という部分を聞かされる。そうすると、3回目に聞いた最初の部分、この場合は、manyを解答用紙の3番に書き込むことになる。解答欄には、ただ番号が振ってあるだけで後は空欄である。

語のみの聞き取りでは、個々の語は発音練習の問題あるいは発音テストの問題から、nativeによって標準的な発音で明瞭に発音されているものを選んだ。そして、信頼性を増すために、それぞれの語をランダムに2回ずつ入れ、更に、ここでの実験とは直接関係のない同レベルの基本的な語を4語入れた計50問の聞き取りテストを行った。同一の語について2回とも正解したもののみを正解者とみなし、2回ともできなかった者およびどちらか一方のみの正解者は、除いた。

文脈を伴った語の聞き取りを最初に行い、一週間あいたを置いて語のみの聞き取りを行った。

3. 実験の結果と考察

今回の実験の結果をまとめたものが資料1-1~3である。スペースの関係で、1・2・3年についてはテストの結果は集計した合計のみをのせた。表の中で1が正答である。

ただ単に語のみを与えた場合と文脈の中で与えた場合の違いを、文脈の中で与えた場合について、ただ単に語のみを与えた場合を基にして百分率で表わしたものが資料2である。

この結果からは、予想に反して、全体的には文脈の中での聞き取りの方が語のみの場合よりも正答が減少していることが読み取れる。そうだとすると、実際の音だけでなく統語的・意味的な情報も使用できる方が、ただ単に音のみを聞き取るよりも難しいということになってしまう。そこで、この結果をもっと細かく検討してみることが必要となる。本稿ではスペースの関係もあって載せられなかったが、ただ単に語を聞き取らせる問題で、まったく同一の語を2回聞き取らせる場合にどちらか一方だけは正答となる者がかなり多かった。たとえば、right/writeの場合では、2回とも正解者38.2%、2回とも不正解者13.7%、に対してどちらか一方のみ正解者48.1%であった。同一の語を聞き取らせる回数をもっと多くし、更に、類似の音の場合も正解の者についてのみ正解者とみなす、とすれば、音の聞き分けの測定はより正確になり、それに伴って語の正解者数も減少すると考えられる。そうなれば、

語のみの場合と文脈の中での聞き取りの差が少なくなると考えられるが、それでは、音の聞き分けのみの測定となってしまふであろう。今回の実験で、2回とも正解した者のみを正解者とみなす、としたのは、聞き取りの練習問題を行うとその時々結果にばらつきが大きく、このため一度だけの聞き取りでは信頼性が低すぎるであろうから、少しでも信頼性を高めることを目的としているだけのことであり、2回ということには、2回ならば十分信頼できるということではない。そういう訳で、この結果は、大まかな傾向を知るといふ目的で解釈されねばならない。この結果の解釈では、2倍以上および2分の1以下を文脈の効果の現れと見ていくことにする。

文脈があることによりプラスの効果が見られるものは、4のheard、10のso、17のcalledの3つである。プラスの効果を生み出す原因は、4では前にwasという過去形があるため、動詞の過去形という情報が利用された結果だと考えられる。10では、suddenlyという中学校の必修語ではないが全ての教科書に現れるなじみのある副詞の前に来るものという情報が利用されたと考えられる。17の場合はもう少し複雑そうである。同じ意味の動詞callの過去形である35の場合と比較してみると、過去分詞である17の場合が433%であるのに対して35では100%だからである。35の場合も4の場合と同様に、前にrealizedという過去形があるにもかかわらず、文脈によるプラスの効果は出ていない。17と35の違いを比べると過去分詞と過去形という違いがあるが、過去分詞の方が過去形よりも理解しやすい、という説明は無理があると思われる。それ以外の違いを見ると、後ろに続く語が17では名詞であるのに対して、35では代名詞である。14、24、25についても目的語が代名詞であり、14では1%、24では21%、25では13%と、正答率はいずれも大きく下がっている。これらと比較すると、35の正答率も相対的に高いと言える。17と35の場合は、共通点としては、すぐ後ろに続く母音がどちらもiであるので、coldではなくcalledに聞こえるのかも知れない。

次に、文脈があることによってマイナスの効果が見られるものを見ていく。マイナスの効果が見られるのは、5、9、14、20、22、24、25、29、30、31、34、36である。このうち14、24、25については、すでに見たように、後ろに続く語が代名詞であるという共通点があり、これがマイナスの効果を生み出す原因になっていると考えられる。5、9については、どちらもlightという語ではあるが、5では「火をつける」という動

詞であり、9では「明るい」という形容詞であり、被験者になじみのあるのは「光、明かり」という名詞なので、統語的・意味的情報が利用できなかったためであると思われる。20では、後に続く語がseatであり、これによって前の語がlongかwrongかを決定することができないばかりでなく、long seatならば意味がわかることから、逆に間違った答えを誘発したように思われる。36のsawでは、24のsawの場合と近くなっている。24の場合は、後に続く語が代名詞であるということがマイナスの効果の原因の様であったが、36の場合は代名詞ではない。しかし、この場合は、後に続く語が固有名詞であり、しかもBen Pollackというなじみのない人名であったことから、文脈の情報が利用できなかったと思われる。30の場合は、同じnowを聞き取る6、13と比較すると、6、13がどちらも100%であるのに対して33%と正答率が大きく下がっている。13と30はどちらも重文で、しかもand nowという同じつながりであるのに正答率が大きく異なっている。両者の大きな相違といえば、文の長さであるので、この場合は手がかりとなる情報の距離がマイナスの効果を生み出す原因になっていると考えられる。22、25、29、31、34の場合は、共通点はno/knowという音である。これについては、現在のところマイナスの効果をもたらす原因は推測できない。

これら以外については、効果が微妙である。

今回の実験では、基本語を対象としたので一音節の語が中心となったため、文脈の中で一語として聞き取るのに困難を生み出した面もあるようである。それは、例えば、see herの場合に、これを一語と捕らえ、それにあうような語を思い浮かべてしまい、その結果間違えてしまう、という場合も少なくなかったからである。

4. 終わりに

今回の、ただ単に語を聞き取る場合と文脈の中で語を聞き取る場合との比較によって、聞き取りに関しては、文脈を伴っている場合には語のみの場合よりも多くの情報を利用しているとは言いきれない、ということは少なくとも、言えそうである。今後の課題として、どのような情報が利用されるか、またどのような場合にプラスに働き、どのような場合にマイナスに働くかをより明確にすることが必要である。

資料1-1

4年単語のみの聞きとり(1)

4年単語	light	right/write	long	wrong	tree	three	sing	thing	think	cold	called	so
a					1	1		1	1			
b	1						1				1	
c		1	1		1	1		1				
d	1			1	1				1	1		
e					1			1			1	
f	1	1		1	1	1		1	1			
g				1	1	1			1	1	1	
h	1			1	1	1		1	1	1		
i		1	1		1	1						
j	1				1	1	1	1	1	1	1	
k			1		1	1	1	1				1
l					1		1			1	1	
m	1	1			1	1		1	1			
n	1		1	1	1		1		1			
o						1		1	1			
p	1	1	1		1	1	1		1	1		
q	1	1	1		1	1	1					1
r	1	1	1			1		1	1			
s	1		1		1	1			1			1
t		1	1			1	1		1			
u			1		1	1			1			
v					1	1	1	1	1			
w			1		1	1	1					1
x	1	1	1		1	1	1	1	1			1
y	1		1		1	1		1	1	1		
z					1	1	1		1			1
aa		1	1		1	1	1				1	
ab			1	1	1	1	1	1	1		1	1
ac		1	1		1	1	1		1			
ad	1				1	1	1				1	
ae			1		1	1			1			1
af			1	1	1			1	1	1		
ag						1			1			
ah		1	1		1				1			
ai					1	1	1	1	1			
合計	14	12	19	7	30	27	16	16	26	12	2	8

saw	money	many	but	now	no/know	heard	hard	sea/see	she		
		1	1		1	1		1		9	
		1	1			1		1		8	
1			1	1	1	1		1		11	
	1		1	1		1			1	10	
		1	1	1		1		1		7	
1	1	1	1	1	1	1		1	1	15	
		1	1	1		1				10	
1				1	1	1		1	1	12	
	1	1			1	1		1	1	10	
1			1	1	1	1		1	1	14	
	1	1	1	1	1	1		1		11	
		1	1	1		1				7	
1	1	1	1			1		1	1	12	
1	1	1	1		1	1		1	1	12	
1		1	1	1	1	1		1	1	8	
		1	1	1	1	1		1	1	14	
1				1	1	1				10	
1	1	1		1	1	1		1	1	11	
		1	1		1	1		1	1	13	
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	
	1	1	1		1	1		1		8	
1			1	1	1	1		1	1	11	
	1			1	1	1		1	1	10	
		1	1	1	1	1		1	1	15	
	1	1	1	1	1	1		1	1	14	
			1		1	1		1	1	9	
			1	1	1	1	1	1		11	
	1			1	1	1			1	12	
	1	1	1	1	1	1			1	11	
	1	1	1	1	1	1	1		1	10	
	1	1	1	1	1	1		1	1	12	
1	1		1	1	1	1		1	1	13	
1				1	1	1		1		6	
			1		1	1		1		7	
1	1	1		1	1	1		1		11	
合計	14	22	25	16	25	33	0	15	26	11	376

資料1-2 4年文脈中での語の聞きとり(1)

4年文	1	2	22	29	31	3	4	5	9	6	13	30	7	21	32	8	28	10
	long	no	no	no	no	many	heard	light	light	now	now	now	hard	hard	hard	cold	cold	so
a	1	1		1	1	1				1	1					1		
b	1		1	1	1	1				1	1		1	1	1	1		
c		1	1	1	1	1				1				1	1		1	
d				1						1	1			1		1	1	
e	1		1	1						1	1	1						
f	1	1	1	1	1				1	1			1	1	1		1	
g		1		1	1		1			1	1	1		1			1	
h	1	1	1	1						1	1					1		
i		1	1			1				1	1							
j	1	1	1	1	1					1	1	1		1	1		1	1
k		1		1	1	1				1						1	1	1
l				1	1					1	1			1	1			
m	1					1				1	1		1	1		1	1	
n	1	1			1					1	1			1		1		1
o	1	1	1	1	1					1	1		1	1	1	1		1
p	1	1	1	1	1	1			1	1	1					1		1
r	1	1	1	1	1					1	1	1						
s		1	1	1	1					1	1				1	1	1	
t	1	1		1		1	1			1	1	1				1	1	
u	1			1						1	1			1				
w	1			1						1					1			1
x	1						1			1	1			1				
y	1	1	1	1	1					1	1	1	1	1	1	1		1
z	1	1	1	1	1	1				1	1			1				1
aa		1	1	1	1	1				1	1	1		1		1		
ab	1		1		1					1	1	1	1	1	1	1	1	1
ac	1			1						1	1			1	1			1
ad	1	1	1	1	1					1	1	1		1	1			
ae	1	1	1	1										1				1
ag	1		1							1		1					1	1
ah	1	1		1	1		1			1				1		1	1	
ai	1	1	1	1	1					1	1	1		1		1	1	1
aj	1			1	1					1	1		1	1	1			1
ak				1	1					1		1		1		1		1
am	1	1		1						1	1			1		1		
合計	26	22	19	29	22	10	4	0	2	34	27	12	7	24	13	18	13	15

文脈のリスニングに与える効果について

資料1-2

4年文脈中での語の聞きとり(2)

11	19	12	14	15	16	17	35	18	20	23	24	36	25	34	26	27	33	
right	right	she	see	think	sing	called	called	tree	wrong	money	saw	saw	know	know	three	thing	but	
1	1	1		1											1			13
1										1			1					14
		1						1	1	1								13
	1	1							1	1					1			11
															1	1		8
1		1		1				1	1	1		1			1			19
1	1			1				1		1					1	1		16
		1		1											1	1		11
	1	1								1								8
1					1			1		1					1	1		18
1		1			1					1					1			13
	1							1		1					1	1		11
		1		1	1					1					1			13
				1						1					1			11
	1	1		1											1			16
										1								12
	1	1		1														11
1	1	1		1				1		1			1	1	1			19
				1										1	1			8
1				1				1										8
1		1			1			1		1			1	1		1		13
1		1							1	1				1		1		19
															1			11
1	1	1		1				1							1			16
1		1			1			1						1	1			18
1		1						1								1	1	12
1	1	1		1				1	1	1			1					18
1															1			8
1								1								1		9
1	1							1		1			1	1		1		16
1	1						1		1	1					1	1		19
1	1			1				1							1			14
1				1				1					1	1	1			13
				1	1					1					1	1		12
20	13	18	0	16	7	0	1	16	6	19	0	1	6	7	22	12	1	462

資料1-3

単語のみの場合と文脈中での聞きとり集計結果(1)

1年単語	light	right/write	long	wrong	tree	three	sing	thing	think	cold	called	so	saw	money	many	but	now
合計	12	9	16	16	27	24	6	14	25	24	0	4	11	24	21	18	21
1年文	1	2	22	29	31	3	4	5	9	6	13	30	7	21	32	8	28
	long	no	no	no	no	many	heard	light	light	now	now	now	hard	hard	hard	cold	cold
合計	20	14	11	6	12	5	2	3	2	25	12	7	3	7	8	11	4
2年単語	light	right/write	long	wrong	tree	three	sing	thing	think	cold	called	so	saw	money	many	but	now
合計	3	9	16	5	21	19	4	7	21	9	0	1	4	12	20	19	19
2年文	1	2	22	29	31	3	4	5	9	6	13	30	7	21	32	8	28
	long	no	no	no	no	many	heard	light	light	now	now	now	hard	hard	hard	cold	cold
合計	20	20	4	5	13	21	0	0	1	9	23	5	1	4	6	12	12
3年単語	light	right/write	long	wrong	tree	three	sing	thing	think	cold	called	so	saw	money	many	but	now
合計	11	17	23	15	30	29	12	15	33	13	1	7	9	27	33	25	19
3年文	1	2	22	29	31	3	4	5	9	6	13	30	7	21	32	8	28
	long	no	no	no	no	many	heard	light	light	now	now	now	hard	hard	hard	cold	cold
合計	21	21	15	13	13	30	0	0	0	20	26	4	7	9	9	25	24
4年単語	light	right/write	long	wrong	tree	three	sing	thing	think	cold	called	so	saw	money	many	but	now
合計	14	12	19	7	30	27	16	16	26	12	2	8	14	22	25	16	25
4年文	1	2	22	29	31	3	4	5	9	6	13	30	7	21	32	8	28
	long	no	no	no	no	many	heard	light	light	now	now	now	hard	hard	hard	cold	cold
合計	26	22	19	29	22	10	4	0	2	34	27	12	7	24	13	18	13

文脈のリスニングに与える効果について

資料1-3

単語のみの場合と文脈中での聞きとり集計結果(2)

no/know	heard	hard	sea/see	she															
31	2	10	26	17															
10	11	19	12	14	15	16	17	35	18	20	23	24	36	25	34	26	27	33	
so	right	right	she	see	think	sing	called	called	tree	wrong	money	saw	saw	know	know	three	thing	but	
4	14	11	11	1	13	4	3	1	13	3	15	5	1	6	4	13	9	1	
heard	hard	no/know	sea/see	she															
0	4	23	11	11															
10	11	19	12	14	15	16	17	35	18	20	23	24	36	25	34	26	27	33	
so	right	right	she	see	think	sing	called	called	tree	wrong	money	saw	saw	know	know	three	thing	but	
19	4	7	15	0	21	4	0	1	10	0	11	1	0	0	3	8	4	1	
heard	hard	no/know	sea/see	she															
0	2	37	32	22															
10	11	19	12	14	15	16	17	35	18	20	23	24	36	25	34	26	27	33	
so	right	right	she	see	think	sing	called	called	tree	wrong	money	saw	saw	know	know	three	thing	but	
28	8	16	26	0	34	7	10	0	22	8	17	2	4	2	6	16	15	1	
no/know	heard	hard	sea/see	she															
33	0	15	26	11															
10	11	19	12	14	15	16	17	35	18	20	23	24	36	25	34	26	27	33	
so	right	right	she	see	think	sing	called	called	tree	wrong	money	saw	saw	know	know	three	thing	but	
15	20	13	18	0	16	7	0	1	16	6	19	0	1	6	7	22	12	1	

文脈のリスニングに与える効果について

資料2

問題	文脈での正解者数	語の正解者数	%
1	87	74	118
2	77	124	62
3	66	99	67
4	6	2	300
5	3	40	8
6	88	84	105
7	18	31	58
8	66	58	114
9	5	40	13
10	66	20	330
11	46	47	98
12	56	72	78
13	88	84	105
14	1	95	1
15	79	105	75
16	22	38	58
17	13	3	433
18	61	108	56
19	47	47	100
20	17	43	40
21	44	31	142
22	49	123	40
23	62	85	73
24	8	38	21
25	5	40	13
26	58	58	100
27	40	52	77
28	53	58	91
29	53	124	43
30	28	84	33
31	60	124	48
32	36	31	116
33	68	78	87
34	20	124	16
35	3	3	100
36	6	38	16

資料3

1. Some were very large and were 30 meters (long).
2. Of course, there are (no) dinosaurs on the earth now.
3. The guest had heard these voices too (many) times, and now he was afraid .
4. While he was there, he (heard) the voices, too.
5. I couldn't even (light) a fire in my cabin.
6. (Now) he had only one day to study.
7. Although he had studied so (hard) the night before, he only remembered eight words out of the twenty.
8. It was a (cold) January morning in 1982.
9. The snow that started to fall the night before had not yet stopped, and at half past six it was not yet (light) outside.
10. Why did Serve pull her master (so) suddenly and make him fall to the ground?
11. You will soon see a big red sign on your (right).
12. She had saved her master, and (she) herself had been hit by the speeding car.
13. You saved my life and (now) you are going to lose one of your legs.
14. One day a poor woman asked Dr. Goldsmith to come and (see) her husband, who was sick and could not eat.
15. Do you (think) about the meaning of your name?
16. Why did he (sing) "Imagine"?
17. Peace-loving young people (called) "hippies" were against the Vietnam War.
18. One day I was out hunting, and I saw a racoon up in a (tree).
19. You have no (right) to sit on the bench.
20. I'm sorry, but you're on the (wrong) seat.
21. He felt a dull pain as a (hard) fist hit him in the stomach.
22. It was (no) use fighting any longer.
23. Goldsmith had given them all the ready (money) that he had.
24. When he (saw) me, he asked, "Is your name Davy Crockett?"
25. Mr. Kameyama didn't (know) this, for he was blind.
26. The banks shut at (three).
27. The faithful dog had never done such a (thing) before.
28. Use your finger or a brush and wet the outside edge of the bottom crust with (cold) water.
29. We (no) longer need these clothes, but I just can't throw them away.
30. A mad dog has bitten my friend Henri, and (now) they are burning him with red-hot irons.
31. If he catches it, (no) one will be able to cure him.
32. His father worked (hard) to send his son to school.
33. I think microbes come, not from bad foods, (but) from the dust that floats in the air.
34. This research made possible the tinned and bottled foods we (know) today.
35. He realized that it was something too small to see and (called) it a 'virus'.
36. When he was a young man, he (saw) Ben Pollack, a famous band leader.

(受理年月日 1997年 9月30日)